



中国平安
PING AN



arto Ping An Team Thailand
2020 SUPER GT RACE REPORT

第6戦 鈴鹿サーキット（三重県）

arto Ping An Team Thailand は、10月24日～25日、三重県/鈴鹿サーキットで開催された2020 SUPER GT シリーズ第6戦に参戦しました。第2戦～第5戦では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入出国規制のためドライバー登録していたショーン・ウォーキンショーとナタポン・ホートンカム及びチームスタッフが来日できないため、ドライバーには佐々木雅弘と堤優威を起用していましたが、今回については尊くドライバーのうちウォーキンショーとマティアス・ベッシェが来日したため、本来のドライバー布陣での参戦となりました。ベッシェはFIA 世界耐久選手権（WEC）のLMP1、LMP2クラスで活躍していた選手で、WEC 日本ラウンドで来日してレースを戦ったことはありますが、SUPER GT シリーズでは岡山国際サーキットでのシーズン前合同テストで走行をして以来、実戦には初めての出走となります。

■公式予選

24日（土）、鈴鹿サーキットの上空には薄い雲が広がりましたが、前日の雨はあがりコースは完全ドライコンディションとなりました。午前中の公式練習ではまずウォーキンショーがミディアムタイヤを装着してコースインし、持ち込みセッティングの確認を行いました。

ウォーキンショーは数周毎にピットインしてマシンのアジャストを行い、11周を走ってベッシェに交代しました。この時点でタイムは2分01秒358にとどまり出走30台中27番手でした。

ベッシェはミディアムソフトタイヤを装着してコースイン、赤旗によるセッション中断を挟んで14周を走り、GT300 専有セッションで再びウォーキンショーにマシンを引き継ぎ、公式予選に向けた確認を行いました。

この練習走行で得られたデータを元にチームは、ベッシェの試したミディアムソフトタイヤの方がタイムアタックに適していると判断、午後の公式予選 Q1A 組のタイムアタックはベッシェに任せることとしました。ベッシェはアンダーステアを訴えながらタイムアタックし1分58秒055を記録しましたが、Q2 進出には0秒415足りず、Q2 進出はならずスターティンググリッドは21番手と決まりました。

■決勝レース

25日曜日の鈴鹿サーキットは快晴となりました。チームは、今シーズンの出走は初めてですがこれまで SUPER GT の経験を積んでいるウォーキンショーにスタートを任せスタートに臨みました。2台が出走しなかったため、ウォーキンショーは19番手グリッドからレースを始め、2周目には18番手、4周目には17番手と順位を上げました。決勝レースでのウォーキンショーのペースは良く、前方グループから大きく引き離されることなく周回を重ねていきました。

チームはドライバー交代のタイミングを計り、上位陣がピット作業をする中、周回を続け8番手まで上がった24周目にピットイン指示を出そうとしましたがタイミングがわずかに会わず、ウォーキンショーはピットロード入り口を通り過ぎて25周目に突入しました。そして運悪くこの周にセーフティーカーが入ってしまいました。

ここでウォーキンショーはスローダウンを強いられた後ピットイン、ベツシェへのドライバー交代とタイヤ交換及び給油を行いコースに復帰しましたが、セーフティーカー前にピット作業を行った車両が一気に順位を上げたのに対し、ベツシェの順位は22番手へと戻ってしまいました。

交代したベツシェも、練習走行の時より安定したペースで走行を行いましたが、オーバーテイクは難しく、27周目に21番手、30周目に20番手、44周目に19番手へ順位を上げましたが、そこで優勝車と同一周回の19位でチェッカーフラッグを受けました。この結果、チームは完走ポイント3点を獲得しました。

■正式結果

公式予選 クラス 21位（出走 29台） Q1:1分58秒055 Q2:DNS

決勝 クラス 19位（出走 29台） 1周後れ

■コメント

A ドライバー：シヨーン・ウォーキンショー

「ようやく日本に来られて、昨シーズン以来のスーパーGTを戦いました。クルマの感触は相変わらずアンダーステア傾向があるけれども去年より良くなったように感じました。予選では少しギャンブルをして順位はいつもと同じでしたけど、レースでは良いペースで走れて順位も上げられました。本当はもっと上げられそうだったんだけど、セーフティーカーのタイミングがあまりにも悪かった。あのセーフティーカーがなければ計算上トップ6に入れたはずなんです。それくらいレースでのペースは良かった。後は予選で前に並ぶことです。もてぎでは結構良い結果が出せるのではないかと手応えがあったレースでした。」

B ドライバー：マティアス・ベツシェ

「日本ではグレートな週末を過ごしました。スーパーGTというファンタスティックなシリーズに参戦できてほんとに嬉しいです。日本語をもっと勉強したくなりました。レースでのペースは悪くありませんでした。ただパワーをかけたとき、あるいはブレーキングしたとき、縦方向のトラクションに問題があったように感じました。もてぎは鈴鹿とは違う性格のコースだと聞いていますが、そこが課題になりそうです。うまく解決できればもっと上位で走れるはずです。そのためにハードに働くつもりでいます」

チーム監督：ステポン・サミタチャ (Suttipong Smittachartch)

「ようやく、本来予定していたドライバー・ラインナップでレースを戦えるようになりました。ここまでレースを闘いマシンの熟成してくれた堤優威選手と佐々木雅弘選手には感謝したいと思います。今回も私は現場に立ち会うことができませんでしたが、チームからのレポートでは、ウォーキンショー選手もベツシェ選手も今年初めてのレースであるにもかかわらず上位陣と同等のペースで走り、セーフティーカーが入らなければポイントが獲れるところだったとか。チームのレベルが非常に上がってきたようで嬉しく思っています。今後とも応援をよろしくお願いします」